



地域日本語支援ニュース こだま 第 242 号

2013.10.10



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

===== 目次 =====

1 ■日本語教育メール相談から—26■

ビジネス日本語を教える際の媒介語について

2 ■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(10月・11月) \*今回は新しい情報はありません

=====

1 ■日本語教育メール相談から—26■

ビジネス日本語を教える際の媒介語について

-----  
AJALT では、各地域において在住外国人にたいする日本語支援を行っている方々からの日本語支援に関するご相談をメールで受け付けています。教室運営や対象別指導法、日本語文法など、皆様の日々の活動における疑問に、AJALT のベテラン教師が丁寧にお答えいたします。今回は、最近頂いたご相談の中から、下記のご相談と回答をご紹介します。皆様もどうぞ、お気軽にメール相談をご利用下さい。-----☆☆☆☆☆☆☆☆

<ご相談内容>

ビジネス日本語指導の際の媒介語についての相談です。私は還暦の歳で、若いころ企業に勤めていた経験がボランティアとして役立つことがあるなら、外国語を少し勉強してみようかなと考えています。英語は大学時代から何十年離れていてとても使えませんが、英語を勉強し直したほうがいいのかどうか、率直なご意見をお聞かせください。

<回答>

ご相談のメール、ありがとうございます。以下、思いつくことを書いてみました。少しでもご参考になれば幸いです。

◆ビジネス日本語を教える際の媒介語について◆

学習者が媒介語を求めるのは、わからないとき（と導入の説明のとき）です。授業の大半は、普通、話せるようにするトレーニングに費やされ、この時間は媒介語は使われません。単純に言うと、教師が話す量より、学習者が練習する日本語の量が多い授業ほど、実のある授業といえると思います。

ビジネス日本語も他の日本語教育も、媒介語で説明する部分は限られています。媒介語を使わない直接法では日本語だけで説明するのですが、その部分が、初めは媒介語になるだけです。その限られた部分だけに集中して、例えば媒介語が英語なら、その英語表現を勉強することは、学習者の一層の日本語理解にもつながり、有益なことだと思います。

限られた部分とは、定型表現の意味や助詞の機能、文型説明の訳文、活用の説明、練習の指示の出し方などです。訳が付いた日本語のテキストも出版されています。そういったものを利用してその説明を一つずつスラスラ言えるように覚えていくことです。ある程度の数を覚えると、同じ表現や似た表現のストックができて、楽になります。また、そうやって外国語を学ぶ大変さを知るとは、学習者の気持ちを察する貴重な手掛かりを得ることもでき、上手に教えることに必ずつながります。まずはチャレンジしてみてもいいでしょう。

これからもますますのご活躍をお祈りしております。

(AJALT 所属日本語教師 松岡浩彦)

---